

## 知的に重い自閉症Aさんへの取り組み —入所施設での取り組み—

ひよりの丘

ビデオに流れる利用者のご家族には  
事前に承諾をいただいています。

## I はじめに

### • 再構造化

物理的構造化、スケジュール  
ワークシステム、視覚的構造化

### • PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)

PECSとは、コミュニケーション障害を持つ方々に  
自発的コミュニケーションを教えるための絵カード  
を使った機能的代替コミュニケーション

## II プロフィール

Aさん 46歳 男性

### 1 診断名

最重度精神発達遅滞 自閉症

### 2 健康面

てんかん(平成21年)  
おおむね良好  
精神薬、眠剤を服用

## 3 アセスメント

### (1) 検査

① IQ11(TK-TB)H10.12判定  
療育手帳A1

② CARS 47.5点(重度自閉症)

〈人との関係〉  
〈変化への適応〉  
〈感覚面〉  
〈コミュニケーション〉

自閉症の特徴

## (2) 行動観察

- 余暇時間は部屋のソファに座っているか、トイレにこもりがち
- 色・形のマッチング、絵の意味理解できる
- 聴覚より視覚が優位
- 食事、排泄、着脱は概ね自立
- 日中活動は他利用者と歩行やミュージックケア、スヌーズレンなどに参加

## III 小池学園成人部での行動問題と対応

### 1 構造化導入前の行動問題

- 水分を過剰に摂り、制止すると興奮
- 毎日のように大声を上げ、自分の頭を叩く
- 作業中に大声を出し、トイレに入り込む
- 支援員を見ながら他利用者を噛む、引っ掻く
- 気に入らないことがあると、物を投げる
- 好きなコーヒーを見ると抑制困難、日課に支障
- 無届外出が年数回ある

## 2 構造化の導入(平成20年度～)

### (1) スケジュールの利用

目的 コーヒーがいつ飲めるか  
見通しをもつ

形態 縦の流れ8枚

当時のスケジュール →



### (2) 作業場面の物理的構造化

ワークシステム(平成21年度～)

作業場面では、職員からの言語指示で動いている。



目的

見通しを持って自立的に作業に参加する。

## 内容

- ・ 刺激を遮断し、作業場所と休憩場所の分離

## IV ひよりの丘移転後の

### 行動問題と対応

#### 1 移転直後の様子

#### 2 異食への緊急対応

- ・ 常時見守り困難なため、ワークの中止
- ・ 生活空間にある飲み込めるものの排除
- ・ スケジュールの素材と掲示場所の変更
- ・ 祝日の楽しみの保障
- ・ ワークシステムを利用したモップかけの継続

## 3 再構造化とPECSの導入

### 施設内事例検討会

「自閉症の特性と支援の手掛かりを探るシート」と  
「構造化のアセスメントシート」の作成



#### 4つの柱

- (1) 落ち着ける環境の設定
- (2) 余暇支援
- (3) PECSの導入
- (4) スケジュール操作の獲得

### (1) 落ち着ける環境設定

#### ① 居室空間の変更



変更前

変更後

### (1) 落ち着ける環境設定

#### ② リビングでのワークスペースの確保



### 結果

- 変更後の方が本人にとって落ち着ける環境となった
- ワークに集中して取り組むことができた

### (2) 余暇支援

#### 目的

本人にとってより楽しい時間を増やす

#### 方法

- 限定された支援員と1対1対応
- 紙素材のパズル
- 負荷のかからない量

#### 結果

- トイレにこもる時間が減る
- 笑顔で待つことがみられた



### (3) PECSの導入

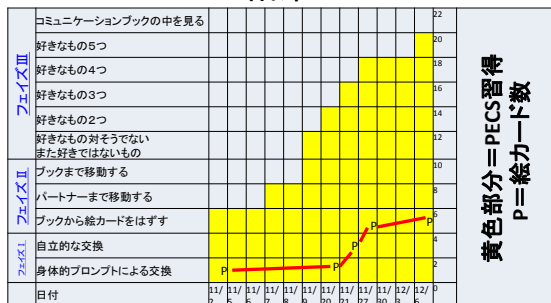
#### 目的

- スケジュールカードと要求カードの区別
- 自発的な要求伝達手段の獲得
- 好子の選択、ストレスの軽減

#### 方法

- 人的環境・・・勤務体制の調整、職員の固定
- 物理的環境・・・ミニコーヒークップ、カードの形態

### 結果



### 結果

- スケジュールカードとPECSカードは食べない→本人にとって必要な物
- 体の緊張がほぐれ、表情が和らいでいた
- 入所施設独自のPECS  
→おやつ時間に組み込む

### (4) スケジュール操作の獲得

#### 目的

- ・スケジュールの理解の向上
- ・見通しをもって安心して過ごす

#### 開始前の状況

- ・スケジュール本体は、フェルト素材で作る
- ・カードがすぐ落ちる、他利用者に崩される
- ・支援方法が統一されていない、声かけで支援し、活用されていない

### 方法

①行動開始前にトランジションカードを受けとり、スケジュールに移動

②一番上のカードをとり、下のポケットにおろし、行動を開始する

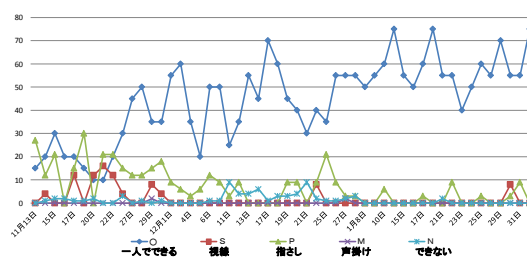


### 支援の工夫

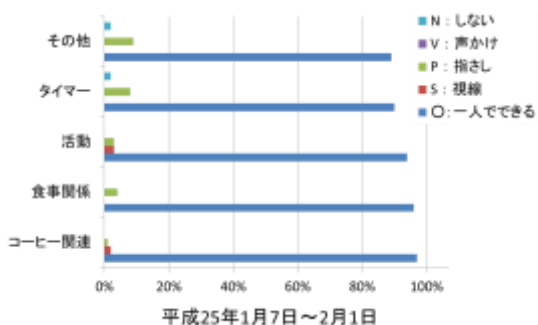
- ・スケジュールの設置場所
- ・マジックテープでの補強
- ・カードへの番号付け
- ・支援方法の文章化
- ・支援する人の明確化

### 結果(11月13日～2月1日)

平日スケジュールの日別合計得点の推移



### 平日スケジュールの操作達成状況



### 取り組み後の変化点

- ・スケジュールを見て行動できる→  
安心して過ごす
- ・カードの理解が深まる
- ・新しいカードを受け入れ、間違いを訴える
- ・カードの順番を自分で確認→  
支援員に何度も確認を求める行動が減る
- ・変更や交渉ができる

**考察** <支援するうえで重要と思われたこと>

- ・利用者自身が見通しを持ち、自立的に行動できる
- ・自発的で適切な要求手段を持つ
- ・一人ひとりの特性とニーズを把握する
- ・状況の変化によって構造化を見直す
- ・情報を共有し、統一した支援体制を整える